



▼
第 1 章

歴史的瞬間のはじまり



▼ コマ大戦、そのきっかけは飲み会

2012年2月2日、パシフィコ横浜で開催中の「テクニカルショウヨコハマ2012」のずらりと並んだブースの一角が、にわかには熱気を帯びてきた。直径わずか25センチの土俵の上で、直径2センチの小さな金属製の2つのコマが回る。ぶつかり合いながらも、軸はぶれずに回り続けるコマ。どちらが先に倒れるか、息を呑み、片方が回転を止めた瞬間に、わっという歓声が響く。それも何度となく。来場者たちが、何か何かと次々と集まってきた。子どもの頃に一度は遊んだことがある「喧嘩コマ」。それが原点だ。その子どもの遊び道具に心血と技術を注ぎ、一喜一憂する製造業の大人たち。その模様はテレビや新聞、またネットでも、各マスコミに取り上げられ、全国規模で製造業を応援するイベントとなった。それが「第1回全日本製造業コマ大戦（略称・コマ大戦）」の歴史的瞬間だった。

「テクニカルショウヨコハマ」は神奈川県内最大の工業技術・製品に関する



第1回コマ大戦の会場にはたくさんの見物客が集まった

総合見本市。県内の中小企業、製造業が一齐に集まり、産業の発展と経済の活性化を目的とする産業展だ。

「ここで、なんとか目立つことをやらないと」と考えていたのが、製造業の経営者集団「心技隊」の隊長、株式会社ミノロ代表取締役の緑川賢司だった。心技隊は2008年から展示会に出展。

「1社1ブースだと出展料が高いでしょ、だから4社共同でブースを出そうということになって結成したのが『心技隊』なんです」

とはいえ、ブースに新製品とか、新技術とかを並べただけでは、なかなか目を向けてもらえない。「それで何か

※心技隊

「技は心と共にあり」を合言葉に、製造業に関わる経営者が集う集団

<http://smgl.jp/>

おもしろいイベントをやるうということになってね」という緑川。そこで「ものづくり流行語大賞」を發案。2011年には大賞「無駄遣い10%」を表彰して、場を盛り上げてきた。

表彰式だけではまだまだ人は多くは集まらない。「次に何をやるうか」と緑川たちが考えていた2011年9月。

「ちょうど、静岡で、地元の製造業仲間11名と飲み会があったんです」

そこで緑川が目にしたのが、株式会社由紀精密の小さなコマだった。由紀精密は航空部品など、精密切削加工に精通した企業で、単独で2011年の国際パリ航空宇宙展（パリ・エアショー2011）にも出展している。そのノベルティグッズとして、頒布用につくっていたのが、小さな金属製のコマだった。単独で回せば3分以上回り続けるという安定感抜群のコマは、エアショーの来場者のみならず、緑川の目をも釘付けにした。

「これはいける」

緑川はピンときた。静岡からの帰りの新幹線のなかで軽く構想を練った。

「小さなコマなら旋盤で簡単に、たぶん10分もあればつくれる。旋盤は製造

※ものづくり流行語大賞その年、町工場で話題となった言葉に贈られる。2011年2月に発表された第1回大賞は「キヤナ型」

※無駄遣い10%

「低迷する景気を回復させるためには、日本人の預貯金のうち3%が市場に出れば、あつという間に景気は回復するという試算がある。わずか3%。消費税率よりも低い。みんなでその3%分、少し賢沢やちょっと無駄遣いをすれば経済は低迷せずにすむ」という思いではじまった活動。2011年3月の震災をきっかけに3%から10%にアップ。



由紀精密が製作した直径10ミリほどのコマ。単独で3分以上も回り続ける

業ならほとんど持っているし、材料も端材を使えばいい。仕事の負担にもならないし、誰でも参加できるだろう。コマどうしを戦わせる喧嘩コマは盛り上がるはず」

コマといえば、まず、木製の昔ながらの郷土玩具を思い浮かべることができよう。ほかにも、ずしりと重く冷たい感触が忘れられないベীগマ、その進化形のベイブレードなど、年代は違えど、誰しも一度は目にしたことがあるだろう。コマは漢字で書くと「独楽」。日本では古くは「コマツブリ」または「古末都玖利（コマツクリ）」と呼ばれた。元々は、巻き具を回す単純な遊びだった。木製の木地独楽が主

※旋盤
工作物（材料）を回転させて、工具を押しつけて切削する工作機械。一般的に、加工品は回転軸に対して対称となる。

流で、奈良時代、平城京の遺跡からも発見されている。指先でひねる、手のひらで軸をこすって回す、紐を使って回すなど、その回し方もいろいろ。そのなかでも最も単純な指でひねるコマがいいと、緑川は思っていた。人の手を介して回すほうが、ハプニングが起きやすいからだ。

飲み会の翌日、緑川はすぐにフェイスブックにこのコマ大会の概要をアップした。するとその日のうちに、フェイスブックを見た同業者たちから、参加の手が上がった。それも近県だけでなく、茨城や福井など地方からの参加表明もあった。

緑川はこの反応を見て、「これは自分が思う以上に食付きがある」と確信した。

期日は「テクニカルショウヨコハマ2012」と決まっている。ここからわずか4か月で大会のルールや概要をつくる準備がはじまったのだった。

▼さあ、準備、それもまた焼き肉屋から

フェイスブックの告知とともに、「相鉄線上星川の焼き肉屋」に心技隊のメ